

3月29日
移住者交流会「やいたび 第5弾」で春の矢板を満喫



矢板市に移住を検討している方や移住者などを対象に、マイクロバスで市内を巡る移住者交流会「やいたび」を開催しました。参加者は、春の訪れを感じさせる矢板武記念館のシダレザクラやミツマタ群生地、日本遺産・山縣有朋記念館を見学。寺山観音寺では写経と瞑想を体験し、昼食には矢板市産の食材を使った弁当を堪能しました。自然・歴史・文化・食の魅力を一日を通して満喫し、移住後の暮らしを具体的にイメージできる充実した時間となりました。



4月10日
地域のおもてなしでにっこり「牧野富太郎植物同好会」



▲同好会の皆さんにあいさつをする山縣農場花畑の会 今平会長

宇都宮大学の名誉教授谷本 丈夫博士が会長を務める牧野富太郎植物同好会の皆さんが、山縣有朋記念館やミツマタ群生地などを巡り、上伊佐野地区の自然を満喫しました。

お昼は、山ゆりの会名物「落花生おこわ」のほか、採れたてのタケノコやフキの煮物、けんちん汁など、山縣農場花畑の会の皆さんが準備したランチを堪能しました。地元の皆さんは「また来年も来てくださいね」と、都内より朝早くから来てくれた同好会のバスを笑顔で送り出しました。

▲谷本会長を先頭にミツマタの森を散策する同好会の皆さん



▲山縣農場花畑の会の皆さん



文化財愛護協会会長を務める郷土史研究家の白石 哲夫さんと、市内に残る石仏や石碑をめぐる小さな旅へ。まちに息づく歴史や物語にふれてみませんか。



ながさか
長坂の
大石地蔵
（平野）
おいししじそう



寺山観音寺へ向かう参道の1つである平野線の途中に立つこの石地蔵は、台座を含めて高さ約2.7mを誇り、塩谷地区で最大級の石仏とされています。台座には宝暦9年（江戸時代中期）8月の建立と、信州高遠の石工・平嶋 六右衛門の名が刻まれています。高遠は現在の長野県に位置し、優れた石工を多く輩出した地として知られ、石工たちは2～3人のグループで全国を巡り、各地に質の高い石仏を残しました。市内でも安沢の宝篋印塔など5基の作品が確認されています。

この石地蔵は、宝暦7年に塩谷地方一帯で流行した伝染病による犠牲者を供養するため、寄付を募って建立されたものです。当時、平野村では54戸のうち14人が亡くなる大きな被害がありました。設置場所は参道でも特に険しい「長坂」と呼ばれる地点であり、参詣者はこの地蔵の穏やかな表情に励まされ、疲れを癒やしたと伝えられています。昭和48年に矢板市の有形民俗文化財に指定され、地域の歴史と信仰を今に伝える貴重な文化財となっています。

みんなでおぼえよう!手話

監修 矢板市社会福祉協議会

『行く』



『帰る』

